

2020年度第5回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 精進湖特別

精進湖（しょうじこ）は、山梨県中南部の富士山北西麓にある淡水湖。富士五湖のひとつで、面積は五湖の中で最も小さい。かつて本栖湖、西湖とはひとつの湖で、「せの海」と呼ばれていたが、富士山の噴火によって現在のように3つの湖に分断されたとされている。

○ ノベンバーステークス

ノベンバー (November) は、11月を意味する英語。ラテン語で「9」を意味する「Novem」が語源とされ、古代ローマで採用されていた3月起算の暦において9番目の月という意。

○ 京王杯2歳ステークス (G II)

本競走は、昭和40年に『京成杯3歳ステークス』として創設された重賞競走。当初は中山競馬場の1200mで行われていたが、55年に東京競馬場の1400mに変更された。また、59年のグレード制導入によりG IIに格付けされ、平成10年に『京王杯3歳ステークス』に改称された後、13年の馬齢表示の国際基準化に伴い、『京王杯2歳ステークス』となった。

京王電鉄は、東京都多摩市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 百日草特別

百日草（ひゃくにちそう）は、キク科の植物。別名はジニア (Zinnia)。メキシコが原産で、日本には、江戸時代の末期に渡来したとされる。花色は紅・紫・白・黄など多彩。開花時期が初夏から晩秋までと長いことからこの名が付いたと言われている。花言葉は「幸福」「絆」。

○ 錦秋ステークス

錦秋（きんしゅう）は、紅葉が錦の絵柄のように色鮮やかな秋の様子を表現した言葉。

○ アルゼンチン共和国杯（GⅡ）

本競走は、昭和 38 年に日本とアルゼンチンの友好と親善の一環として、アルゼンチン・ジョッキークラブから優勝カップの寄贈を受け、『アルゼンチンジョッキークラブカップ競走』として創設された重賞競走。49 年にアルゼンチンの競馬がジョッキークラブから国の管轄に移管されたことに伴い、その翌年から現在の名称となった。創設時は 4 歳以上 2300 m の別定重量戦であったが、幾度かの条件変更を経て、3 歳以上 2500m のハンデキャップ戦となった。

<第 3 日>

○ オキザリス賞

オキザリス (Oxalis) は、カタバミ属の球根類の総称。南アフリカや熱帯アメリカが原産。日本には、江戸時代に渡来したとされる。花色は種によって桃・白・黄など多彩で、光に反応して花が開き、暗くなると閉じるという特徴を持つ。花言葉は「喜び」「母親の優しさ」。

○ ユートピアステークス

ユートピア (Utopia) は「空想上の理想的な社会」「理想郷」を意味する英語。ギリシャ語の「どこにもない (ou) 場所 (topos)」「良い (eu) 場所 (topos)」に由来する。

○ 東京中日スポーツ杯武蔵野ステークス（GⅢ）

本競走は、平成 8 年に創設されたダート重賞競走。当初は春季の 2100m で行われていたが、ダート競走体系の整備に伴い、秋季の 1600m に変更となった。なお、第 1 着馬には同年のチャンピオンズカップへの優先出走権が与えられる。

武蔵野 (むさしの) は、東京都と埼玉県にまたがっている洪積台地。また、東京都中央部の市。

東京中日スポーツは、中日新聞社東京本社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 4 日>

○ 神奈川新聞杯

神奈川新聞は、神奈川新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 秋色ステークス

秋色（あきいろ）は、葡萄色や柿色などの秋を連想させる色。また、「しゅうしょく」とも読み、秋らしい景色や趣のことを指す言葉。

○ オーロカップ（L）

本競走は、盛岡競馬場と東京競馬場の姉妹提携を記念するとともに、地方競馬と中央競馬の友好と親善を図ることを目的として平成 8 年に創設された競走。盛岡競馬場では交換競走として『東京カップけやき賞』が実施されている。同競馬場のある岩手県は「南部曲り家」「チャグチャグ馬コ」等に象徴されるように、古くから馬事文化が根付いている。

オーロ（oro）は、「黄金」を意味するラテン語。また、同競馬場の呼称である「オーロパーク」を指す。

<第5日>

○ 秋陽ジャンプステークス

秋陽（しゅうよう）は、秋の陽射しのこと。絵画、写真などの芸術や短歌、俳句などの文学において、秋陽をテーマとした多くの作品を見ることができる。

○ 西湖特別

西湖（さいこ）は、山梨県南部にある淡水湖。富士五湖のひとつで、面積は約 2.1 km²。周辺には溶岩でできた洞窟が存在しており、蝙蝠（こうもり）穴や竜宮洞穴は国の天然記念物に指定されている。

○ エクセル伊勢佐木開設 20 周年記念伊勢佐木特別

本競走は、エクセル伊勢佐木開設 20 周年を記念して実施される。

伊勢佐木（いせざき）は、横浜市中区の地名および商店街。明治時代以来、横浜を代表する繁華街として発展してきた。

なお、イセザキモール街の中には JRA の場外勝馬投票券発売所であるエクセル伊勢佐木がある。

○ 奥多摩ステークス

奥多摩（おくたま）は、東京都西多摩郡にある町名およびその周辺部の山城。御岳山や雲取山、関東最大級の規模を誇る日原鍾乳洞などの観光スポットが有名。

<第6日>

○ 赤松賞

赤松（あかまつ）は、マツ科の常緑針葉樹。赤褐色の樹皮が特徴。全国の山野、特に内陸部に広く分布しており、防風林として植林されるほか、庭木としても栽培される。黒松が「雄松（おまつ）」と呼ばれるのに対し、赤松は「雌松（めまつ）」と呼ばれる。

○ 南武特別

南武（なんぶ）は、武蔵国の南部の意。JR 南武線の名称の由来となっている。南武線府中本町駅は、東京競馬場の最寄り駅としても利用されている。

○ 霜月ステークス

霜月（しもつき）は、陰暦 11 月の異称。霜が降りる月のため「霜降月（しもふりつき）」と呼ばれていたものが、のちに省略され「霜月」となった。

<第7日>

○ 東村山特別

東村山（ひがしむらやま）は、東京都多摩地域北部の市。緑豊かな都心へのベッドタウンとして栄えている。郷土民謡の「東村山音頭」は全国的に有名。

○ 晩秋ステークス

晩秋（ばんしゅう）は、秋の終わりのこと。また、陰暦 9 月の異称。「晩秋の候」など時候の挨拶にも用いられる。

○ 東京スポーツ杯 2 歳ステークス（GⅢ）

本競走は『東京 3 歳ステークス』を前身とする重賞競走。昭和 43 年より『府中 3 歳ステークス』と名称が変更され、59 年には距離が 1800m となった。平成 8 年に重賞競走に格上げされた後、9 年に『東京スポーツ杯 3 歳ステークス』と改称され、13 年から現在の競走名となった。

東京スポーツ新聞社は、東京都江東区に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○ カトレアステークス

カトレア(Cattleya)は、中南米原産のラン科の洋ランの一種。40種ほどの原種から多くの改良種がつくられ、ランの女王とも呼ばれている。花色はピンク・赤・黄・白・淡紫など多彩。花言葉は「優雅な女性」「魔力」。

なお、本競走は、日本馬を対象とした『ケンタッキーダービー』出走馬選定ポイントシリーズ「JAPAN ROAD TO THE KENTUCKY DERBY」の対象レースとなっている。

○ 銀嶺ステークス

銀嶺(ぎんれい)は、雪が降り積もって銀色に輝く山のこと。

○ キャピタルステークス(L)

キャピタル(Capital)は「首府」「首都」「(中央官庁のある)都市」を意味する英語。

<第9日>

○ ベゴニア賞

ベゴニア(Begonia)は、シュウカイドウ科ベゴニア属の植物の総称。原種は熱帯・亜熱帯に分布し、その数は2000種余と言われている。葉は左右不相称で、色彩・模様・形状など変化に富み、花色も淡紅色・白・黄・赤・紫など多彩。花言葉は「愛の告白」「片思い」。

○ オリエンタル賞

オリエンタル(Oriental)は「東洋的」「東洋風」を意味する英語。また「(宝石が)上質の、光沢が美しい」という意味もある。

○ シャングリラ賞

シャングリラ(Shangri-La)は「理想郷」を意味する英語。名は、イギリスの作家ジェームス・ヒルトン(James Hilton)の小説『失われた地平線』の中に登場する理想郷に由来する。中国の桃源郷伝説と結びつけて語られることが多い。

○ ウェルカムステークス

ウェルカム(Welcome)は「歓迎」を意味する英語。ジャパンカップに出走する外国馬やその関係者に対する歓迎の意味が込められている。

○ **ジャパン・オータムインターナショナル
ロンジン賞 ジャパンカップ（G I）**

本競走は「世界に通用する強い馬づくり」を目指すべく、昭和 56 年に創設された重賞競走。初年度はアメリカ・カナダ等の 4 ヶ国から合計 8 頭を招待して実施された。57 年にはヨーロッパとオセアニア地区、58 年には地方競馬の代表馬も招待の対象となった。また、平成 20 年に創設された秋季国際 G I 競走シリーズ『ジャパン・オータムインターナショナル』に指定されている。

ロンジンは、スイスのサンティミエに拠点を置く時計メーカー。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。